vinetur

iDealwine、10月のオークション売上高が19%増の382万ユーロに

落札ロット数は4.3%増にとどまり、高額ワインの比率上昇が10月の売上高増加を押し上げた可能性がある

2026年11月9日（月）



iDealwineのオンラインオークションで10月に販売されたワインの売上高は大幅に増加し、落札ロット数の伸びを上回った。プラットフォームで取引されたワインの構成が、より高額なものへと移ったことをうかがわせる。

11月6日に公表された同社のデータによると、iDealwineの10月のオークション売上高は、落札者手数料込みで382万ユーロに達した。フランスのワインマーケットプレイス兼オークションプラットフォームである同社によれば、同月の落札ロット数は14,780件だった。

9月と比べると、売上高は19%増加し、落札ロット数は4.3%増えた。この増加率を基にすると、9月の売上高は約321万ユーロで、10月は約61万ユーロ増えたことになる。同社が公表した丸めた増

加率から計算すると、ロット数は前月から約609件増加した。

売上高の伸びが数量の伸びを大きく上回ったことは、販売全体で一様に価格が上昇したというより、10月の出品には高額ワインが多く含まれていたことを示唆する。iDealwineはまた、10月の平均価格を750ミリリットル瓶換算で158ユーロと公表した。この指標は、ロットの規模や瓶の容量が異なる場合でも結果を標準化して比較できるようにするものだ。

ただし、この数字は慎重に見る必要がある。1ロットに複数本の瓶が含まれることがあり、オークションの月間実績は出品された生産者、ヴィンテージ、瓶の容量によって大きく変動する。希少ワインや古いヴィンテージ、大容量瓶の出品が多い月は、市場全体が同じペースで値上がりしていなくても、総額が押し上げられる可能性がある。

10月の報告はiDealwine自身の取引に基づくもので、幅広い市場を示す指数ではなく、同社プラットフォーム上の動向を記録したものだ。同社は複数の国の買い手が参加するデジタルワインオークションを運営しており、この市場分野で最もよく知られた企業の一つである。

iDealwineは4月に公表した市場動向レポートで、2025年のオークション売上高が落札者手数料込みで4,240万ユーロだったと発表した。同じレポートで、同社はオンラインワインオークションの世界的リーダーを自称している。この位置づけはiDealwine自身の資料に基づくもので、独立機関が検証した業界ランキングは示されていない。

最新の報告には、10月の前年同月比や、比較可能な年初来の数値は含まれていなかった。こうしたデータがなければ、10月の増加が需要全体の拡大を反映しているのか、それとも高額な出品が特定の月に集中した結果なのかを判断するのは難しい。

それでも、10月のデータは9月との違いを明確に示している。プラットフォームで落札されたロット数は小幅な増加にとどまった一方、売上高はそれを大きく上回る伸びとなった。ワインオークションでは、こうした差は買い手の意欲だけでなく、出品内容の構成を反映していることが多い。高級銘柄、確かな来歴、熟成したヴィンテージ、大容量瓶はいずれも、平均取引額を押し上げる要因となり得る。

同社は10月の売上高について、地域、生産者、価格帯別の詳細な内訳を公表していない。そのため、どのカテゴリーが増加に最も寄与したのかは報告から分からない。また、月間売上高のうち単一瓶のロットと、複数のワインを組み合わせたロットや複数瓶の出品がそれぞれどの程度を占めたのかも明らかにしていない。こうした要素も、ロット数と売上高の関係に影響し得る。